

研究機関名：東北大学

受付番号：	2011-454
研究課題名	胆道癌における新規癌関連遺伝子の網羅的解析
研究期間	西暦 2011 年 12 月 (倫理委員会承認後) ～ 2016 年 12 月
対象材料	■病理材料 (対象臓器名 胆道 ) ■生検材料 (対象臓器名 胆道 ) ■血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他 ( )
上記材料の採取期間	西暦 2006 年 12 月～ 2011 年 12 月
意義、目的	胆道癌(肝内胆管癌・肝外胆管癌・胆のう癌・十二指腸乳頭部癌)診断時に進行癌となっていることも多く、進行癌の予後は不良であり、現在外科的切除以外に根治治療が期待できる治療法は存在しない。これまでにその発症機序として、FBW7,p53,p16,Ras 遺伝子といった腫瘍抑制遺伝子の不活性化型変異、癌遺伝子の活性化型変異は報告されているものの、腫瘍発生や浸潤・転移、薬剤耐性や予後にどのように寄与しているのかは明らかではなく、解明が遅れている。本研究では東北大学病院で手術を施行した検体を使用し、既知の胆道癌関連遺伝子の変異解析、発現解析を行い、さらに新規の胆道癌関連遺伝子を検索し、胆道癌発癌の機構を解明することを目標にしている。
方法	胆道癌 (肝内胆管癌・肝外胆管癌・胆嚢癌・十二指腸乳頭部癌) の症例で、東北大学病院肝胆膵外科で治療目的に手術を施行した際に摘出した標本より、術後診断に影響のない癌部組織と正常部組織を採取する。これらの検体より核酸、蛋白質を抽出し癌関連遺伝子の発現、変異解析を行う。具体的な解析内容は、 1. 胆道癌における FBW7, KRAS,p53,p16lnk4a 遺伝子変異の解析 2. 胆道癌における FBW7, KRAS,p53,p16lnk4a 遺伝子発現レベルの検討 3. 次世代シーケンサーを用いた新規胆道癌関連遺伝子の変異解析 4. 次世代シーケンサーを用いた胆道癌関連遺伝子の発現量解析
問い合わせ等の窓口	仙台市青葉区星陵町 1 - 1 東北大病院 肝胆膵外科 電 話：022-717-7205 F A X：022-717-7206 担当者氏名：吉田寛